

分類/属性	ピアレビュー(ピアデスクチェック)		ウォークスルー		チームレビュー		ソフトウェアインスペクション		デザインレビュー	
	定義	各自の解釈	定義	各自の解釈	定義	各自の解釈	定義	各自の解釈	定義	各自の解釈
目的	欠陥の検出を目的とする	開発者個人として対象物の正当性を任意のタイミングで第三者に評価を受ける仕様の突合 開発者個人の技術力向上及び対象物の品質向上 ※ピアレビューを意識しての実践経験なし(宮本) 同左(大津) 同僚同士によるレビュー。 ウォークスルーと同じ?(鈴木) ※実施体験がありません 基本的に同左。 設計書は実施しない?(三善)	欠陥の検出、代替案の検証を行うためのレビュー 学習・教育機会として行われることもある 作成者の判断で実施する	非公式的な対象物の妥当性を検証するためのレビュー(宮本) 設計の内容を理解すると同時に欠陥を発見することを目的設計者自身が能動的に行う非公式なレビュー(作成者の要求を満たすもの)(中村) 作成者の観点で品質を確保するために実施。教育的意味合いもある。(中尾) 現業務ではパッケージ製品の検査項目作製における「意図一覧」に対して実施。 新機能や修正箇所より、妥当な検査項目であるかを検証する。 上司の承認を得る。(三善)	チームとして成果物の検証を行い確定するレビュー インスペクションと同様の形態で行われるが、インスペクションほど厳密・明確ではない(参加者の役割、成果物、実施タイミングなど)	機能、成果物に対する結合にあたり、整合性を検証・確認すること 対象機能に関するテスト項目、条件等の妥当性を評価する(宮本) 形式はインスペクションだが、内容はウォークスルーに同じ。(鈴木) プロジェクト内で設計書等のレビューを実施し、意思統一を図る。 学習のためのフォーラム。 対象物の妥当性を確認する。(三善)	欠陥を検出・確認する解を検証する 欠陥の発見。完成した成果物に対して実施する。 参加者の役割、成果物、実施タイミングなどは、厳密・明確である	欠陥を稼動前に検出する 規約に準じていることを検証する。 (設計・機能要件の充足度、コード・規約、コードの欠陥を検出する)(宮本) 欠陥の発見が第一目的 制度的で公式なレビュー 完成した成果物に対して実施(中村) 重要な部分 or サンプル抽出による詳細確認。 今のやり方・進め方・品質で問題ないかどうかの確認(プロジェクトの視点・客観的な確認)と意識統一を図る意味もある。(中尾) 現業務に当てはめるのは難しいです。(三善)	プロセスの定められたタイミング毎に、決定/承認を行うためのレビュー(次工程に進むためのもの) 成果物の是非、工程終了を判断するために必要な人員(設計・開発者以外の第三者など)が出席し、最終承認を得る	設計上の問題点を早い段階で発見し対策を講じることで、手戻りやトラブルを未然に防ぎ、これにより品質を確保し、効率を高める審査(宮本) ハードウェアの信頼性、安全性の設計検証(アポロ計画で実践された手法?)(大津) 作成された設計書に対し、内容を確認し、欠陥を検出する(渋谷) 広義のレビューの意 ウォークスルー・インスペクションらの総称。 (ピアレビューよりも狭義か。)(中尾) 上流での品質確保。 また、設計の内容やレビューでの指摘事項・注意点などの情報の共有化と、完成度および品質の確認を全部門間で行われたことになる。 インスペクション、ウォークスルーなどの方式を指すのではなく、目的の違いで分別?(鈴木) 開発部の各設計書(ユーザーインターフェース設計書等)のデザインレビューに検査部門として参加している。(パッケージ製品) 目的は、ファーストユーザーの立場で改善点を指摘する。(三善)
意思決定権者	レビューア(検証者)のチェック内容を元に作成者が最終決定する	非公式なレビューからインスペクションのような公式なまで個々の目的に見合った適切なレビュー特により方は問わない(大津) 特になし(鈴木) 同左(三善)	全ての決定は、作成者によって行われる。変更は作成者の特権である	チームリーダーによって決定される(宮本) レビュー結果を元に、作成者が修正などの対応を行う(中村) ある程度参加者の意思により変更される。(大津) 最終決定は上司の判断に委ねられる。(三善)	チームリーダー	チームリーダー(宮本、鈴木) ある程度参加者の意思により変更される。(大津) 最終決定はPLの判断に委ねられる。(三善)	欠陥の検出・確認を目的とし、何らかの決定を下すものではない(組織上の決定権者・上長の参加は好ましくない場合がある) レビューの中で解決策は出されない(作成者に任せられる)	基準(機能仕様、要件、標準化)に照らして検査され、その会議体で制御される(宮本) 品質 100%の言い訳できない状態しておく必要がある。(中尾)	ユーザー、上司など、定められた決定権者	品質及び機能を判定できる役割(責任)を持つ権限者による判定(宮本) DRの対象システム・製品の設計担当者(三善)
変更の検証(レビュー結果の検証)	検証の実施は任意である	作成者及びレビュー者による検証(宮本) 担当の変更および確認のみ 場合によっては、ピアレビューで指名された同僚による確認(鈴木) 指摘を受けた障害箇所は修正し、改善箇所は検討し対処する。(三善)	検証の実施は任意である	チーム(リーダーまたは、別の技術者)によって改善が検証される(宮本) 担当者の責任で変更(大津) 作成者が検証・変更する(中村、渋谷) 決定事項に従い修正する。(三善)	検証の実施は任意である	チーム及びプロジェクトにて結果について評価検証される(宮本) 担当者の責任で変更、あるいはモデレータが検証(大津) 作成者が変更点を修正し、出席者がその内容確認を行う(渋谷) 担当者の変更および確認終了報告をチームリーダーが受け終了。(鈴木) 決定事項に従い修正する。(三善)	レビュー内容に対し、検証を実施する レビュー終了時に検証者を指名(中村) 変更および影響箇所に関する再レビュー(鈴木)	再レビューを実施して改善を検証する(宮本) レビュー終了時に検証者を指名(中村) 変更および影響箇所に関する再レビュー(鈴木)	レビュー内容についてのクローズが必要 (レビューシート、報告書などで)	設計者が指摘事項について検討する(三善)
参加者規模	1名 (場合によっては作成者も参加するため2名)	1対1(宮本) 本人を含めて2人(鈴木) 同左(三善)	2名~	数名のチーム内関係者(宮本) 3~6人くらい(三善)	3名以上	作成者を含め数名(小規模:チームメンバー全員、大規模:チーム内サブリーダー格)(宮本) 2~7(大津) 3~8人(渋谷) チームメンバー全員(正社員以外も含む)(鈴木)	3名以上	数名(宮本)	3名以上 実施方法、部門数、ユーザによって異なる	部門数やユーザーに依存(鈴木) 規定なし。 最低、技術部門から1人ずつ出席する。(三善)
参加者・役割	技術者 必要に応じて作成者が説明を実施	同僚(宮本、鈴木) 先輩、後輩でもあるかも?(三善)	技術者同士、同僚同士 説明は作成者自身が行う	チーム内関係者。指導者としては、チーム内のリーダー格(宮本) 技術者同士、同僚同士、関係部署、作成者が指名(大津) 同一プロジェクトの関係者(渋谷) その製品に熟知している部門内の関係者。(三善)	チームメンバー 作成者が進行する等柔軟に対応可能	同一プロジェクトの人(技術者、同僚など)または同一プロジェクト内の同一チーム員(渋谷) チームリーダー、チームメンバー全員(正社員以外も含む)(鈴木) PL、設計書の作成者全員。(三善)	議長、モデレータ(進行担当) 説明係(作成者以外が担当) 記録係 文書で定めてある出席者	設計者、要件定義者(同僚、ユーザが含まれることがある) 対象物に対して、決定権を有する者が含まれる PMもしくは、大規模システムでは、チーム(グループ)リーダーが進行(宮本) 作業成果物について最も建設的なフィードバックをもらええる人 意欲的に参加してくれる人。(大津) そのフェーズの専門家。 場合によってはプロジェクト外の第三者。(中尾) プロジェクトリーダーが進行(鈴木)	成果物の是非、工程終了を判断するために必要な人員	第3者を含めたグループ代表者(専門知識を有する者)と判定者(決定権者)、主催者(プロジェクトもしくは、組織においてその役割を担う者)(宮本) 設計(デザイン)、生産、サービス部門も含む。(鈴木) 最低、技術部門から1人ずつ出席する。(三善)
レビュー対象範囲(見る範囲)	対象範囲は小さい 成果物単位	対象物のみ、手順なし(宮本) 設計書類。 事前に資料配布を行い、場合によっては参加部門より関連のある仕様書等の情報を提出させておく。(三善) メモ書き、メールの類でもよい?(鈴木)	対象範囲は小さい 成果物単位	手順の規定はなく、資料規模は少ない(単一の設計書などの対象物)(宮本) 主催した設計者が説明し、参加者がそのポイントを理解しながら進める(中村) 手順・手順なし 資料規模:作成者の判断による(大津) 正式社内登録の必要がない資料だけでもよい(鈴木) 共通フォーマットに明記された検査項目作成における「意図一覧」(三善)	対象範囲は中程度 機能・機能群の単位	関連する成果物(結合及びテストに該当する成果物)(宮本) 仕様書、設計書、テスト要領書など(鈴木) 設計書(三善)	対象範囲は中程度 機能・機能群の単位 詳細まで掘り下げて検証する。 (リーダーの判断で実施箇所を決定)	プログラム単位 プログラム設計書(詳細設計書) (ユーザが含まれる場合は、機能仕様書等上流工程の設計書)(宮本) レビュー効率を上げるために、レビューの範囲を限定し、短時間で行う(中村) 手順:文書化された手順 資料規模:1回のレビューが2時間以内に終わる程度の資料規模(大津) フェーズにより異なる。 仕様書、設計書、テスト要領書などは必須(鈴木)	対象範囲は大きい(他のレビューと比較し) 工程全体	資料の事前配布 設計者による対象物の説明(宮本) 事前配布原則 設計検証リスト、要求があれば仕様書も(鈴木)
データ収集(出席者、欠陥数など)	特に要求されない	公式的なものはない(宮本) 任意(鈴木) ?(三善)	特に要求されない	改善点を記録(宮本) 議事録程度(プロジェクトによる)(中村) 特になし(三善)	特に要求されない	プロジェクトの記録として管理されているドキュメント(宮本) 場合による(鈴木)	正式に要求される (正式に要求されるのはインスペクションのみ)	記録に残され、その後の改善が検査される(宮本)	組織・プロジェクトごとに定義されるが、特に要求されない場合が多い	場合による(鈴木) 特になし。(三善)
出力報告書	特に要求されない(検証結果程度)	必要とされない(宮本、鈴木、三善)	特に要求されない 作成しても議事録程度	対象物の改善点を記録し、チーム内資料として管理される(宮本) 議事録(中村、大津、渋谷、三善)	報告書・議事録 出力文書がない場合もある	議事録、課題管理表(宮本) 議事録(大津、渋谷、鈴木、三善)	欠陥リスト、欠陥要約書、インスペクション報告書など	議事録、改善ポイントを記すリスト(結果リスト)(宮本) チェックリスト(結果)、議事録などの報告書(中村) 議事録およびチェックリスト(鈴木)	報告書・議事録	議事録(宮本、三善) 議事録、各種報告書、検証リスト(鈴木)
いつ実施するかのタイミング	※実施タイミングについては別シート参照(レビューの流れ)	任意のタイミング(宮本、鈴木) プログラミング、プログラムテストの完了時点。(三善)	※実施タイミングについては別シート参照(レビューの流れ)	設計時(宮本) 次フェーズへの進行前(中村) 作成者の意思による(大津、渋谷、鈴木) 基本的には設計フェーズ。 詳細設計(外部設計・内部設計)では?(中尾) 「意図一覧」の作成完了後。(三善)	※実施タイミングについては別シート参照(レビューの流れ)	単体テスト後(結合テスト前)(宮本) 作成者の意思による(大津) 作成者が要求しチームリーダーが時期を決める(鈴木) 設計書作成時(三善)	※実施タイミングについては別シート参照(レビューの流れ)	対象物が次工程に移る前(コードであれば、テスト前)(宮本) 設計時(設計ドキュメントの検証)(中村) 作業成果物が完了し、次の開発ステップに遷せる状態となったとき(大津) 基本設計・詳細設計・製造の各フェーズの前半から中盤にかけて。(中尾) 分析、設計、コーディング、テストフェーズ手順書に則り行われる。(鈴木)	※実施タイミングについては別シート参照(レビューの流れ)	計画時、設計完了時、ユーザ受入検証前(宮本) プロジェクトの設計、試作、製造などのフェーズごと。(鈴木) 各設計書が完成した時点。(三善)
対象とする成果物	設計成果物 or 製造成果物 完成していない成果物に対しても実施できる 基本的に全ての成果物に対して実施	対象者が作成している任意の状態にある 対象物(宮本) 仕様書、設計書、プログラム(鈴木) チェックをいれたプログラム。(三善)	設計成果物 or 製造成果物 完成していない成果物に対しても実施できる	各種設計書、仕様書(宮本、渋谷、鈴木) 設計書、仕様書、ソースコードなど(中村) 作成者の意思による(大津) 設計成果物 or 製造成果物。 各工程で定義されている成果物。(中尾)	設計成果物 or 製造成果物 原則として完成している成果物に対して実施する	設計書(機能、詳細、プログラム)(宮本) 作成者の意思による(大津) 各種成果物(作成途中分も含む)(渋谷) 仕様書、設計書(鈴木)	設計成果物 or 製造成果物 完成した成果物に対してのみ実施できる	プログラム仕様書、コード完成物(宮本) 仕様書、設計書(鈴木、中村) 設計成果物 or 製造成果物。 各工程で定義されている成果物。(中尾)	設計成果物 or 製造成果物 完成した成果物に対してのみ実施できる	計画書、基本設計(業務設計)、検査報告書(宮本) 製品(鈴木) ?(三善)

・ソフトウェアインスペクション、ウォークスルーの「定義」については、副主査 飯泉さんより展開された資料を参照しています。

Mint(経営情報研究会)著「ソフトウェア開発の実践」
 デザインレビュー: http://www.sessame.jp/knowledge/terms_main_files/terms-ta.html (組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会)(SESSAME)
 デザインレビュー: http://www.sessame.jp/knowledge/terms_main_files/terms-ta.html (組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会)(SESSAME)
<http://www.cam-hi-ho.ne.jp/adamosuite/software-process/processtocics.htm> ソフトウェアプロセスのトピック情報
http://www.sessame.jp/knowledge/terms_main_files/terms.html 組込みソフトウェア管理者・技術者向け用語集

※参考文献 基礎から学ぶソフトウェアテスト 日経BP社
 ピアレビュー～高品質ソフトウェア開発のために 日経BP社
 日経BPソフトプレス「ピアレビュー」同『体系的ソフトウェア入門』
 所属会社の手順書、親会社の手順書の設計管理
 Watts S. Humphrey著 藤野 喜一監訳「ソフトウェアプロセス成熟度の改善」
 Karl E. Wieggers 著 大久保 雅一 監訳「ピアレビュー」